

# テクノロジー 大国 フィンランド

---

成功する国  
フィンランドでの  
ビジネス

**FINLAND**  
FACTBOOK 2020

**#INVESTINFINLAND**

# フィンランド —スマートに、安全に、 そして持続可能に

持続可能に  
成長する  
投資促進のために

---

「フィンランドへの投資ファクトブック2020」へようこそ。  
この冊子は持続可能性な成長を求める企業の皆様のために  
作成しました。フィンランドがビジネスの成功をお手伝い  
できる方法をご紹介します。

フィンランドはさまざまな分野で国際的なリーダーとなっ  
ています。この冊子では、信頼できる第三者からの事実と統  
計に基づいた情報を紹介しています。また、フィンランドで  
ビジネス経験のある国際色豊かなビジネスリーダーたちか  
らの声も紹介しています。どの分野にも独自性があり、投資  
には慎重な分析と計画が不可欠です。

是非あなたのビジネスニーズをお聞かせください。そしてフ  
ィンランドが貢献できることを話し合しましょう。

皆様からのご連絡をお待ちしております。

詳細については、下記をご覧ください。

[INVESTINFINLAND.COM](http://INVESTINFINLAND.COM)

“

## 知られざる 可能性の国 フィンランド

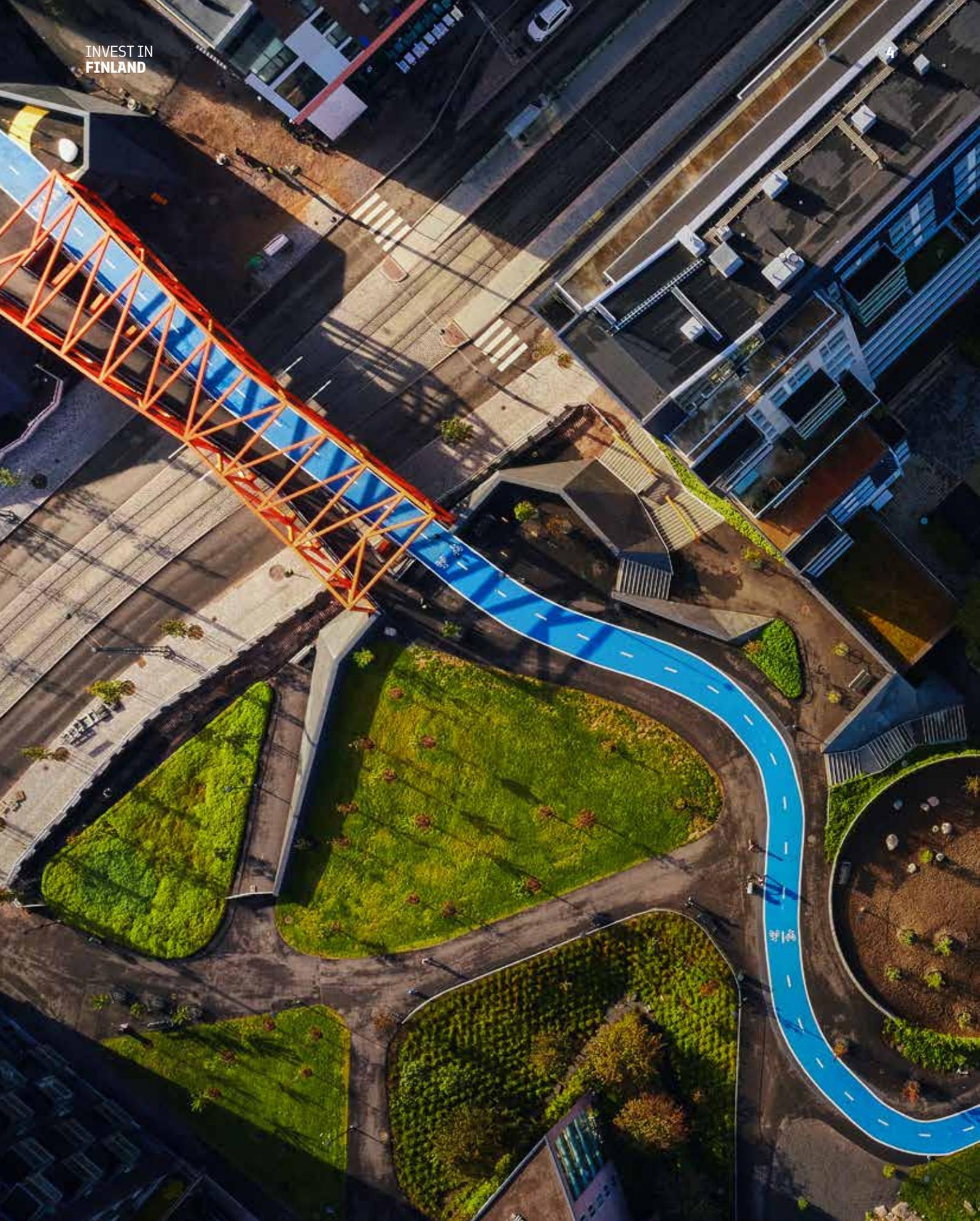
弊社のような企業にとって、フィンランドはローカル・グローバルどちらの観点からも研究を行うことのできる理想的な拠点です。弊社ではグローバルR&D機能をフィンランドに置いており、バイエル (Bayer) グループ5番目の規模を誇っています。

弊社が特に活用しているのは、健康データの利用です。フィンランドには健康登録システムやバイオバンクがあり、研究開発にとって非常に開かれた社会的環境があります。

弊社はこのような環境を利用して臨床研究を行っています。1960年代まで遡ることができる大量のデータと合わせ、フィンランドのこの環境は研究を進めるすばらしい機会となっています。

**ミリアム・ホルスタイン**  
(MIRIAM HOLSTEIN)

バイエル (ドイツ)、  
北欧地域CEO



# 目次

- 2 フィンランド スマートに、安全に、そして持続可能に
- 6 フィンランドに進出すべき10+の理由
- 8 強みを活かしてゴールをつかむ
- 10 新たなビッグビジネスを創造する
- 12 ICTとデジタル化のフロントランナー
- 19 最先端の医療技術と独自の研究開発環境
- 22 環境を守るという大切なビジネス
- 26 バイオ経済革命の中心地
- 30 旅とツーリズム 心躍る新しい機会
- 32 その他の産業
- 37 安定した魅力的なビジネス環境
- 40 ビジネスを支える確かなインフラ
- 42 高学歴で熟練した労働力
- 45 躍進するイノベーション
- 48 外資系企業へのインセンティブ
- 51 フィンランドへの海外直接投資
- 54 インベスト・イン・フィンランド (対フィンランド投資部門)

# 10+

## フィンランド に進出すべき 10+の理由

# #1

**第1位 世界最高の  
ビジネス環境**

2019年グローバル・イノベーション・インデックス

# #1

**EU圏第1位 最高の  
デジタル競争力**

2019年デジタル・エコノミー & 社会指標

# #1

**第1位 14年連続国家  
としての安定性**

2019年国家脆弱性インデックス (平和基金会)

# #1

**第1位 将来のスキルを  
得る教育を若者に提供**

2018年世界将来教育指標、  
エコノミスト・インテリジェンス・ユニット & YIDAN賞

# #1

**第1位 小国でありながら  
人類に最も貢献している国**

2019年良い国指数

# #1

**第1位 世界で最も幸福  
な国 3回連続選出**

国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク

#1

第1位 北欧諸国における  
FDIプロジェクト数

EVIによる2019年北欧の魅力調査

#1

第1位 最新技術の  
高い供給力

2017~2018年WEFグローバル競争力レポート

#1

第1位 外国人居住者が  
住みやすい国

2019年家族生活インデックス

#2

第2位 熟練した労働力

世界経済フォーラム、  
2019年グローバル競争力レポート

#3

第3位 革新的な国

2019年ブルームバーグ・イノベーションインデックス

イノベーション  
チャンピオン

2019年全米民生技術協会

# 強みを生かして ゴールを つかむ

世界トップクラスの技術、有能な人材、優れた研究開発のチャンス。  
フィンランドに事業を設立すべき理由はこれだけではありません。

安定したビジネス環境、機能的な社会、汚職のない国。フィンランドでのビジネスはスムーズです。

フィンランドは、世界で最も革新的な国として常にランキングに入るテクノロジー超大国です。

産業エコシステムは国際的なコラボレーションにも開かれており、最先端の研究やテスト環境を提供しています。世界有数のスタートアップビジネスのイベント、スラッシュ（Slush）をはじめ、活気あるスタートアップシーンは常にイノベーションとアイデアの可能性の源泉となっています。

またバイオバンクは、1世紀以上に及ぶ遺伝子情報を集積しており、創薬や健康関連の研究データの宝庫となっています。フィンランドの原材料や加工産業でも革新的なコラボレーションが可能です。広大な森林は、バイオ燃料のほか、木を原料とした織物繊維などの新しい製品の源です。将来的には、石油ベースで作られているものはすべて、木材から

**世界トップクラスの技術、  
有能な人材、優れた研究開発のチャンス。  
フィンランドに事業を設立すべき理由はこれだけではありません。**

作ることができます。

フィンランドにとって自然は特別な存在であり、気候変動と闘うために私たちは常に、持続可能なソリューションを提供しています。成長が著しい旅行業界では、クリーンな自然の中でのユニークな体験と魅力あふれる投資の機会を提供しています。フィンランドはスカンジナビア、ロシア、バルト海に挟まれ、北欧の消費者5億人にアクセスしやすく、地

域事業の理想的な拠点となります。またフィンランドの消費者は購買力が強く、技術に精通し、国際的な志向を持っています。

安定したビジネス環境、機能的な社会、汚職のない国であるため、ビジネスを円滑に進めることができます。また、北欧で唯一ユーロを使用しています。

フィンランドの法人税率と人件費は非常に競争力があるため、Google、GE Healthcare、Schaeffler、無印良品など、幅広い業界から国際的な企業が集まっています。

# フィンランドは こんな国



## 人口

550万人

### 最大都市:

ヘルシンキ首都圏 (ヘルシンキ、エスポー、ヴァンター)	1,200,000
タンペレ	230,000
オウル	200,000
トゥルク	190,000
ユヴァスキュラ	140,000

## タイムゾーン

UTC+2:00 (EET: 東ヨーロッパ標準時)

## 国土の広さ

南北 1,160 km  
東西 540 km

## 天然資源

森林  
銅  
鉄鉱石  
鋳物  
新鮮な水

## ヘルシンキへの平均フライト時間

ニューヨーク	8時間45分	ストックホルム	55分	北京	7時間40分
サンフランシスコ	10時間35分	モスクワ	1時間30分	上海	9時間45分
ロンドン	3時間	デリー	6時間30分	香港	9時間40分
ブリュッセル	2時間40分	ソウル	8時間50分		
フランクフルト	2時間35分	東京	9時間 40分		
コペンハーゲン	1時間40分	バンコク	9時間45分		
ベルリン	2時間	シンガポール	11時間45分		

# 新たな ビッグビジネス を創造する

フィンランドは成長が期待できる  
ビジネスチャンスを  
幅広い分野で提供します

---





# ICTとデジタル化の フロンティア

世界を変え続ける  
フィンランドの技術と  
デジタルノウハウ

---



フィンランドは、現代のモバイルメッセージング、第5世代移動通信システム (5G) モバイルデータ技術とLinuxオープンソース・オペレーティング・システムの発祥の地です。メイド・イン・フィンランドのセンサーは火星でも使用されています。

フィンランドのICT技術とノウハウは、企業、大学、研究機関の積極的なコラボレーションと、活気に満ちたスタートアップシーンと多くの革新的なテストベッドによって実現されています。ビジネスの成功をサポートしてくれるデジタライゼーションの専門性を求めるなら、フィンランドはまさに最適です。

### サービスとしての モビリティを強化する

私たちは、MaaS (Mobility-as-a-Service) の世界的なパイオニアとして、イノベーション・エコシステムへの参加や構築、テストプラットフォームの活用、R&D事業の立ち上げなどに絶好の機会を提供しています。世界初のMaaS事業者、MaaS Global社はフィンランドで設立されました。同社が提供するサービス「Whim」は、すでに数年前からヘルシンキで利用されています。

また日本の自動車システム・部品メーカーであるデンソーは、フィンランドに研究活動を立ち上げました。デンソーの現地イノベーションセンターでは、フィンランドの専門知識とパートナーシップをうまく活用し、スマートモビリティとMaaSに注力しています。

フィンランドは、ビジネスの幅を広げたいと考えている輸送サービス事業者にとっても理想的な場所です。

### インテリジェントカーの 研究開発

自動車産業の分野では、メーカーやサプライヤーに、自動運転のソフトウェアやハードウェアなどさまざまな技術を探求し実験的に試みる機会を提供しています。自動車市場の変革とデジタライゼーションには、継続的なテストの実施も必要です。フィンランド北部のラップランドにある多目的冬期テスト施設とサービスをご利用いただけます。

### 5Gテストベッド環境を リードする

フィンランドは、5G商用版の市場参入の際には5Gあるいはそれ以上のネットワーク技術と最高のテスト環境を提供します。5Gの標準化と実装は数年間にわたって進化していくため、新機能が導入されるたびに継続的なテストが必要になります。フィンランドには事業者ネットワークの他、6つの5Gテストネットワークがあり、それぞれが異なる使用目的に合わせて設計されています。

5Gテストネットワーク・フィンランド (5GTNF) は、パイオニア企業による5G技術の研究と検証、製品開発、実験をサポートする、オープンで進化するイノベーション・エコシステムです。フィンランドVTT技術研究センター (VTT Technical Research Centre of Finland) がコーディネートする5GTNFは、産業界、学術界、フィンランド政府による共同の取り組みであり、国際的なパートナーの協力も歓迎しています。

また、オウル大学 (University of Oulu) が主導する6Gフラッグシップ研究プログラムは、次世代ワイヤレス技術の可能性に関心のある国際企業にも開放されています。

VTTがコーディネートするチャレンジ・フィンランド5G安全プロジェクト (Challenge Finland 5G-SAFE Project) では、5G対応の新しい交通安全サービスの研究開発を行っています。

## 世界に向けた産業用IoTソリューションを開発する

フィンランドには多くの産業用IoT（モノのインターネット）企業があり、グローバル企業にソリューションを提供しています。

製造ソリューションに加え、フィンランドのIoT企業は、エネルギーの生産と管理をより効率的に行い、生産、スマートビルディング、健康やウェルネスなど、エンドユーザーに至るまでのエネルギーの流れをモニター、自動化、そして最適化するためのインテリジェント技術を開発してきました。

Sulzer, Maersk, Schaefflerなどの企業がフィンランドのIoT技術を利用しています。実際、フィンランドには、人工知能/機械学習アプリケーションに至るまで、あらゆる分野で国際的な顧客を持つ急成長中のIoT企業が数社あります。ほとんどの場合、フィンランドの企業がビジネス・エコシステムとして連携し、顧客の利益のために最適なソリューションを生み出しています。

そのような大規模なエコシステムの一例がIoTアライアンスです。

## AI革命にコミットする

フィンランドは、AI（人工知能）のメリットを経済と社会全体に実装することに力を入れています。フィンランドの革新的なAI企業は、さまざまな業界の国際的な顧客のためにAIの力を利用・適用し、その専門知識を証明しています。

フィンランドAIセンター（Finnish Center for Artificial Intelligence: FCAI）は、アールト大学、ヘルシンキ大学、フィンランドVTT技術研究センターによって設立された全国規模のコンピテンス・センターです。FCAIエコシステムは、研究者、企業、学生、公共部門が参加しており、国際的な参加者との協力にも関心を寄せています。

フィンランドの国家プロジェクト、Auro-raAIプログラムでは、市民や企業がタイムリーで倫理的に持続可能な方法でサービスを活用する際に人工知能が支援するという、人々のニーズに基づいた運用モデルの実装を目指しています。



弊社は、Business Finlandとのコラボレーションを大変嬉しく思っています。

広範なネットワークを通じて、ビジネス・フィンランドは開発エコシステムの拡大を計画的に進める私たちにすばらしい価値を提供してくれました。

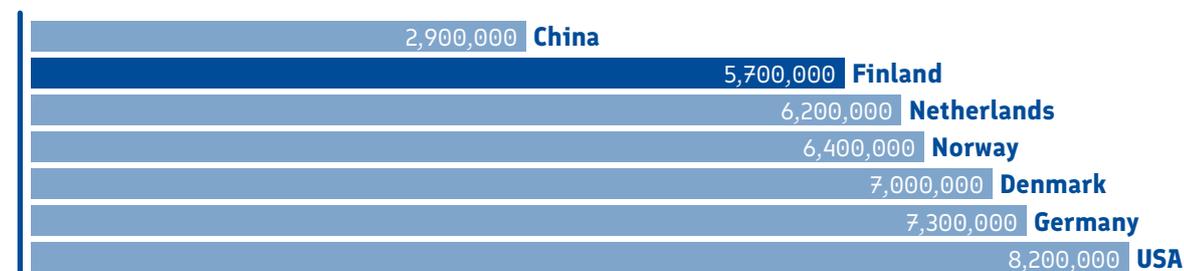
私たちは今、自動車の「ボディシェル」を超えて、未来の新しいモビリティ社会とユーザーのための新たな価値とソリューションを創造することを模索しています。フィンランドの技術コミュニティとモビリティエコシステムの開発イニシアティブが提供してくれる機会に胸を躍らせています。

### 松ヶ谷 和沖

株式会社デンソー（日本）、  
エグゼクティブ・ディレクター

## 適正なコストの人材

100人規模のソフトウェア開発センターの  
人件費（給与+追加費用）



コストはすべてユーロで表示。  
出典：フィナンシャル・タイムズ、fDiベンチマーク、2020年（fDi Benchmark, Financial Times Ltd 2020）

“

タンペレ (Tampere) に研究開発チームを設立することは、弊社のグローバル展開という旅の節目だと思っています。

この旅の中で、私たちはオペレーションとビジネスの強化を図り、現地の人材と協力して、高度に革新的な技術で製品をさらに向上させていきたいと考えています。

**ワン・シャン (WANG XIANG)**

シャオミ (中国)、  
シニア・バイスプレジデント

## 恵まれた自然環境と データへのアクセス

冷涼な気候、強固な岩盤、独自の安定した社会という特色に加え、フィンランドは、ヨーロッパ、アメリカ、アジア間のデジタルプラットフォームにとって最もコスト効率が良く、最も遅延の少ないロケーションとなっています。ヨーロッパと北アジアを結ぶ北極海通信ケーブルが敷設されれば、データセンターやクラウドサービス企業、ハイパースケールデータセンター、コロケーションサービス・プロバイダーにとってフィンランドは理想的な場所としての地位をさらに高めていくでしょう。

フィンランドは気候変動の対策にも取り組んでいます。データセンターで発生する余剰熱を地域の暖房に再利用し、環境面でもしっかりと配慮をしています。

## 製品とサービスの デジタル化

医療用画像から新宇宙経済計画や画像処理まで、フィンランドの企業は多様なニーズに対応するデジタル・アイの開発に豊富な経験を備えています。その技術は、自動車産業や林業、インテリジェントマシン、LIDAR、ハイパースペクトルカメラなどで使用されています。

中国のXiaomi社がフィンランドのタンペレ (Tampere) に研究開発ハブを開設した理由は、このような画像処理の専門技術にあります。

この研究開発ハブでは、カメラアルゴリズム、信号処理、機械学習、動画、画像処理など、スマートフォンのカメラ技術にフォーカスしています。

## フィンテックの 新しいソリューション

フィンランドのフィンテック企業は、常に変容していく銀行や金融サービスのため新しいソリューションを生み出しています。

フィンランドの強みは、サイバーセキュリティ、モバイルe2eソリューション、オープンソースソフトウェア、ユーザーエクスペリエンス、人工知能などです。ヨーロッパの銀行サービスとオープンバンキングに第二次決済サービス指令 (PSD2)が導入されたため、フィンランドの革新的なフィンテック企業が増加しました。

外国企業は、フィンランドのフィンテックエコシステムを研究、開発、イノベーション活動に活用することができます。また、新しいフィンテックソリューションをビジネスにいち早く取り入れている顧客を持つフィンランド企業もあります。

“

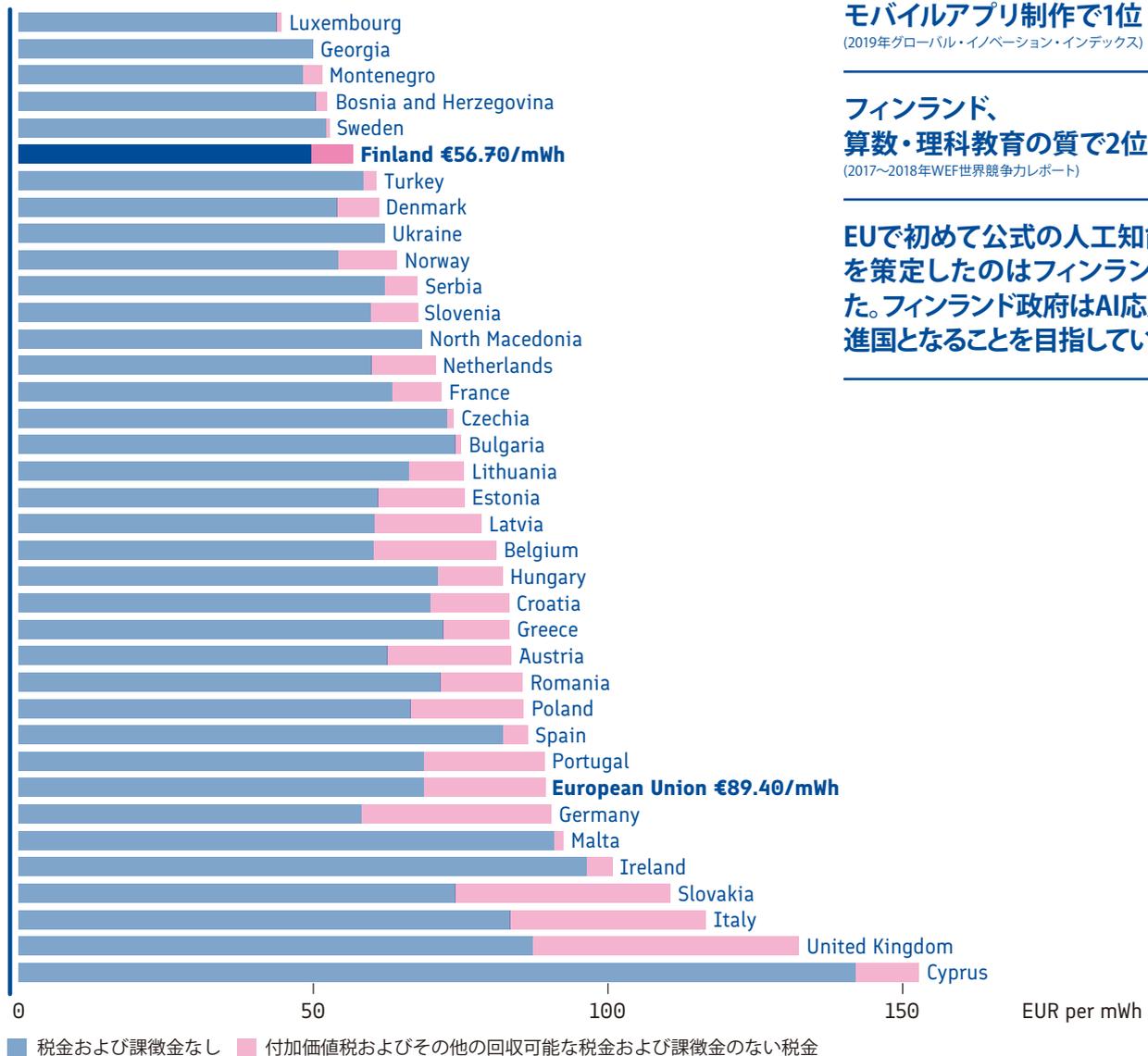
フィンランドには非常に平等主義的な文化があります。生来のチームワークの良さがあり、それが現代のソフトウェア開発方法と非常によく合致しています。また、頭の回転が速い。

英語力にも優れているので、比較的容易に国際的テクノロジー企業との統合することができます。フィンランドのICTコミュニティは、協力体制下でも、独自でも、問題を解決するためにはヨーロッパのどの国よりも非常に柔軟にうまく対応してくれます。

**ティモシー・ジャイセオフスキー  
(TIMOTHY JASIONOWSKI)**

ルビコン・プロジェクト (アメリカ)、  
VR、プロダクト・マネジメント

産業用の消費に対する電気料金



mWhあたりのEUR  
20,000<消費<70,000)、2019年上半期 出典：Eurostat、データは2020年3月抽出

ご存じですか？

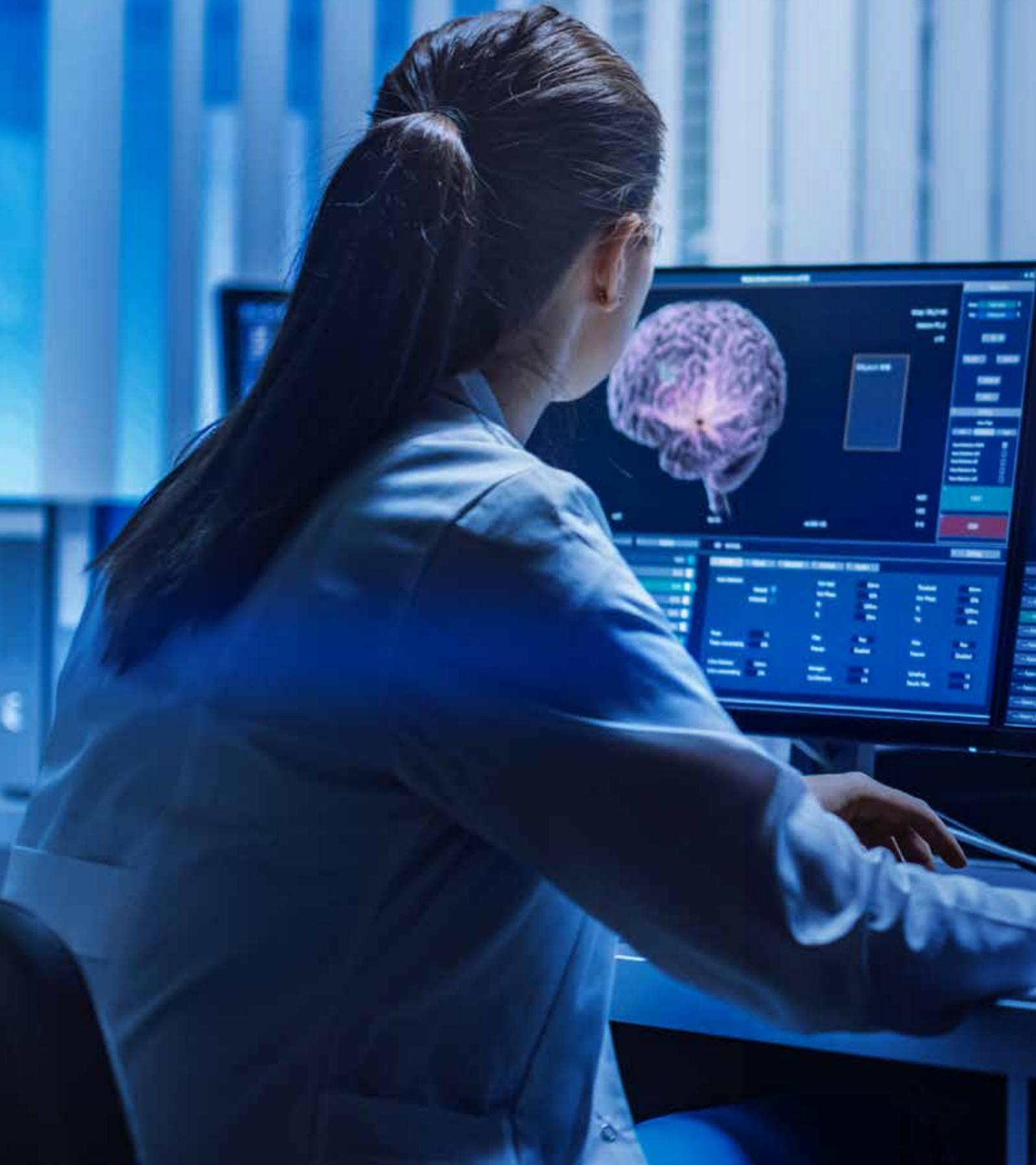
フィンランド、  
EUのデジタル競争力で1位に。  
(2019年デジタル経済社会指数)

フィンランド、  
最新技術の入手可能性で1位  
(2017~2018年WEF世界競争力レポート)

フィンランド、  
モバイルアプリ制作で1位  
(2019年グローバル・イノベーション・インデックス)

フィンランド、  
算数・理科教育の質で2位  
(2017~2018年WEF世界競争力レポート)

EUで初めて公式の人工知能戦略  
を策定したのはフィンランドで  
した。フィンランド政府はAI応用の先  
進国となることを目指しています。



# 最先端の 医療技術と 独自の 研究開発環境

世界でも有数の  
医療研究開発のホットスポット。  
フィンランドは、医療、教育、  
イノベーション、デジタル化、  
行政の分野で  
常にグローバルリーダー  
としてランキングに入っています。

---



フィンランドは、世界トップレベルを誇るイノベーションのコーポレーターとしてグローバル企業にも評価されています（2019年グローバル・イノベーション・インデックス）。Bayer、Thermo Fischer、GE Healthcareなど多くの国際企業がフィンランドに研究開発拠点を設けており、フィンランド企業による健康関連のイノベーションは世界的な関心を集めています。

社会・福祉データをデジタルレジストリーに初めてまとめた国の1つであるフィンランド。電子カルテの人口普及率が100%であるフィンランドのデジタル健康データは、その範囲と深さにおいて世界的にもユニークなものです。

独自の健康データレポジトリの他、フィンランドは、高学歴の人々の幅広いスキル、公的機関に対する人々の信頼、官民パートナーシップの伝統、先進的でイノベーションを起こしやすい法律など、データ駆動型ソリューションの分野でイノベーションを推進できる魅力的な要素を備えています。

### パーソナライズされた健康 医薬品研究開発における 卓越性

フィンランドは、医薬品の研究開発の拠点として信頼されています。FinnGen研究プロジェクトには国際企業が参加しており、ゲノム情報と50万人のフィンランド人のデジタルヘルスデータを組み合わせて新たな治療標的や診断法を特定し、多くの疾患を治療することを目的としています。

フィンランドは、医療・社会サービスのデータリソースが充実していることから、データ駆動型の精密医療の分野ではトップレベルの地位を確立しています。FinnGen研究を通して、フィンランドは生体臨床医学の分野で大きな飛躍を遂げるでしょう。このプロジェクトには、Abbvie、AstraZeneca、Biogen、Celgene、Genentech、GSK、Merck&Co.、Pfizer、Sanofiをはじめとする企業と、フィンランドの研究機関が参加しています。

### デジタルヘルス 世界最高水準の イノベーション・エコシステム

フィンランドはEUの中で最も先進的なデジタル経済国であり(1)、デジタルヘルスにおけるフィンランドの進歩は高く評価されています。フィンランドには、バイオバンクに保存されている生物学的サンプルや表現型データと組み合わせて利用できる、非常に広範で質の高い社会・保健分野のデータベースがあります。このため、より効率的なヘルスケアのための予測分析、デジタル意思決定ツール、人工知能ソリューション、在宅ケアのためのデジタルソリューションの開発が可能になります。

また人工知能や機械学習、ソフトウェア、クラウド、センサー、ウェアラブルなどの分野では高度な教育を受けた人材が揃っており、臨床医療従事者との簡単で明快なコラボレーションが可能であることから、フィンランドはデータ駆動型ソリューションの理想的なテストベッドとなっています。

(1) <https://ec.europa.eu/digital-single-market/en/desi>

## イノベーションを 起こしやすい法体制

フィンランドには、非常に広範で質の高い社会・保健分野のデータベースがあります。新しい法律のもと、個人のデータプライバシーを尊重しながらも、データベースへアクセスすることが容易になりました。2013年にバイオバンク法が施行され、バイオバンクにサンプルを提供した人のリコールや、臨床試験のための患者の迅速な募集ができるようになりました。

健康・社会データの二次利用に関する法律（2019年）では、膨大なデータを研究者や企業が利用できるようになっていました。FINDATAが唯一の窓口としてデータ許可当局とサービス運営者としての役割を果たし、倫理的に健全なデータ活用を監視しています。複数のデータベースを利用する場合には、国立健康福祉研究所と連携してFINDATAが許可しています。このような方法で、研究・開発・イノベーション活動におけるデータ利用の効率的かつ安全な手続きを保証しています。

“

フィンランドの研究には常に高い専門性があります。フィンランドのエコシステムと病院のすばらしいところは、その効率性と信頼性の高さです。多施設共同研究プロジェクトを計画しているヘルスケア企業には、ぜひフィンランドの研究センターを検討していただきたいと思います。

**ナタリア・ミュヘルマン**  
(NATALIA MUEHLEMAN)

ネスレヘルスサイエンス(スイス)、  
グローバル・ビジネス・マネージャー

“

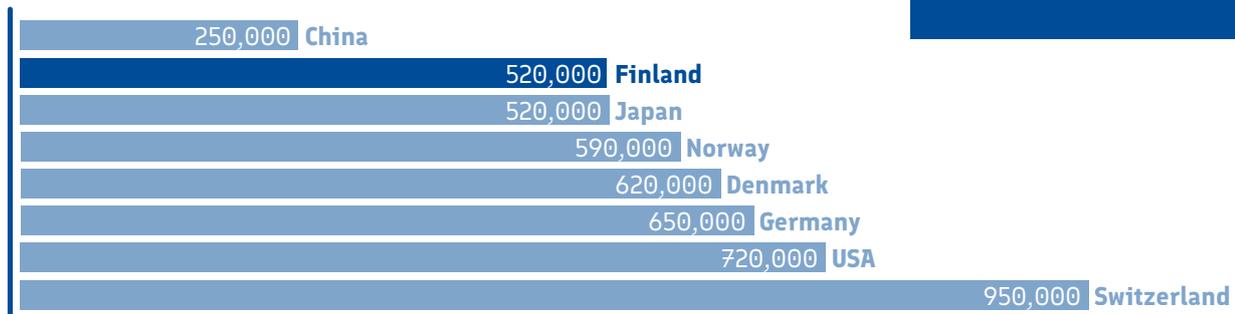
フィンランド政府は教育だけでなく、医療にも力を入れています。まず、医療専門家が多くいます。フィンランドの医療システムは世界一です。私たちも健康診断はフィンランドで受けています。大学などの機関も充実しており、研究や開発はもちろん、臨床医療も奨励されています。このため、他国とは違い、医師だけでなく科学者でもあるという実用的な専門家が多いのです。

これは大事なことです。何かを開発する際には、実社会のどのような問題を解決しようとしているのか、患者が何に苦しみ、どのような社会問題に取り組もうとしているか知っておきたいでしょうから。フィンランドでは、世界中の医療問題に対してさらに実用的な解決策を見つけることができるでしょう。このような会社に投資すれば、市場への道のりが近くなります。

**モニタ・モー (MONITA MO)**

アセンド・キャピタル・  
パートナーズ (アメリカ)

## 臨床研究R&Dチームのコスト



役職名(人数): アシスタントサイエンティスト(1名)、臨床研究アソシエイト(1名)、施設・事務サービススペシャリスト(1名)、研究開発責任者(1名)、ラボラトリースペシャリスト(1名)、ラボラトリー技術者(1名)、R&Dチームリーダー(1名)、サイエンティスト(1名)、シニアサイエンティスト(1名)

コストはすべてユーロで表示されています。出典: fDi基準、Financial Times Ltd 2020

# 環境を守るという 大切なビジネス

気候変動との  
戦いをリードする。  
2035年までに  
カーボンニュートラルへ。

---

フィンランドは、持続可能性、気候変動の緩和、エネルギーシステムの変革という課題に体系的な循環型経済のアプローチにより取り組む中で、さまざまな分野で新たなビジネスチャンスを創出しています。

## 再生可能エネルギーと その貯蔵 確かな成長と新たな機会

再生可能エネルギー生産の分野では、風力・太陽光発電、P2Xソリューション、バイオ燃料、バイオエネルギーに重点を置いています。風力発電産業は堅調な成長を続けており、補助金を受けずに純粋に商業ベースによる新規プロジェクトが実施されています。データセンターや工業生産などエネルギー集約型の事業では、企業はすでに再生可能な風力発電の購入契約を利用しています。研究開発に関しては、Power-to-Xソリューションにますます力を入れています。フィンランドの先駆的なバイオベース産業は、バイオ燃料、バイオエネルギー、素材に注力しています。このような開発をすべて組み合わせることで、新たなビジネスチャンスが生まれ、企業や投資家はフィンランドの安定した再生可能エネルギー市場へアクセスすることができます。

## エネルギーの貯蔵 持続可能な電池の価値連鎖を 構築する

エネルギー貯蔵は、地球規模の気候変動と持続的に闘う上で重要な要素です。電池の価値連鎖におけるフィンランド独自の循環型ビジネス・エコシステムのアプローチは、原材料、電池化学物質、先端材料、電池、モジュール&パック、アプリケーション、再利用、リサイクルを網羅しています。

フィンランドでは企業、研究機関、大学、公共部門が協力し、ヨーロッパの電池エコシステムの構築に積極的に参加しています。原材料からリサイクルのノウハウへの適用に至るまで、フィンランドはこのエコシステムを構築するために必要な重要要素をすべて備えています。フィンランドはヨーロッパで唯一、コバルト、ニッケル、リチウム、グラファイトといったリチウムイオン電池の生産に使用される主な鉱物をすべて保有しています。フィンランドの企業には、電池の価値連鎖全体に関連するすべての技術とサービスなど、鉱業と電池原料の精製に必要な主な技術があります。アールト大学とOutotecは、EUの欧州戦略的エネルギー技術計画（SET計画）（European Strategic Energy Technology Plan: SET Plan）の一環であるBATCircleコンソーシアム（Finland-based Circular Ecosystem of Battery Metals: フィンランドを拠点とする電池金属の循環型エコシステム）の研究を主導しています。

フィンランドは、持続可能性、透明性、価値連鎖全体でのCO2総排出量の低さという観点から循環型電池エコシステムを構築しています。また、安定した競争力のあるビジネス環境の中で、オープンイノベーションを提供しています。このようなことから、成長が見込まれるヨーロッパの電池エコシステムを支えたいと考える国際企業が増えています。



フィンランドの電池  
エコシステムと  
投資機会について  
もっと読む



BASFは、ヨーロッパの自動車市場に提供する電池材料生産の最初の拠点として、フィンランドのHarjavalta（ハリアヴァルタ）を選びました。このため、年間約30万台の電気自動車へBASFの電池材料の供給が可能になりました。

Harjavalta（ハリアヴァルタ）へ投資したことで、どの地域でも現地生産と顧客が近くなり、急速に成長する電気自動車市場を支えています。

**ケネス・レーン**  
(KENNETH LANE)

BASF触媒部門（ドイツ）、  
プレジデント

## スマートで持続可能な 製造革新と経験に裏打ちされ た製品づくり

フィンランドの製造分野の強みは、持続可能性、イノベーション、デジタル化です。エネルギー効率の高いプロセス産業と機械生産で知られるフィンランドは、世界トップクラスのプロセスエンジニアリング、自動車、海運、インテリジェントカーの生産拠点になっています。

国際企業にも、要求が厳しく高度に自動化された製造業や研究開発にフィンランドが最適であることが知られてきています。フィンランドもこの先、共創、イノベーション、迅速な試験生産、テストをその活発な産業エコシステムによって支援していきます。

## デジタルイゼーション インテリジェンスで複雑な問 題を解決する

フィンランドのデジタルイゼーションとスマートエネルギーのノウハウは、複雑化・分散化が進むエネルギーシステムのニーズに応え、世界のエネルギーの変革に貢献しています。私たちは何十年にもわたって非常に安定した電力網を運営してきましたが、その一方で多くの革新的なソリューションを開拓し、新エネルギー分野でスタートアップ企業を後押ししてきました。今や世界でも最先進的な次世代送電網市場の一つであり、明日のスマートエネルギーソリューションの理想的なテストベッドとなっています。

また、オープンで競争力のあるエネルギーシステムは、スタートアップ企業、大企業、研究機関、公共部門を結びつけ、エネルギーと持続可能な製造業においてイノベーション・エコシステムを育成してきました。フィンランドは、クリーンなソリューションに基づいてエネルギーと製造技術を開発し商業化するユニークなプラットフォームを提供しています。



## ご存じですか？

---

フィンランドの電力生産における  
再生可能エネルギーの割合は  
50%に近づいています

---

フィンランドの電力の約80%が  
CO2フリー

---

フィンランドの送電線の安定性は  
99.999998%です

---

フィンランドは、次世代スマート  
エネルギーソリューションの  
理想的なテストベッドです

---

# バイオ経済革命の 中心地

世界的なバイオ経済成長の中心地、  
フィンランド。  
バイオベースの生産と提携のための  
ユニークなプラットフォームを  
提供しています。

---



世界トップレベルの能力と技術を長期的で有益な政策と組み合わせれば、この産業クラスターには、50億ユーロに値するプロジェクトで目覚ましく成長する可能性があります。

100%再生可能なディーゼル、繊維用溶解パルプ、熱分解油、クロスラミネート材、クラフトリグニンなど、先進的なバイオベースの新製品は、すでに商業規模で生産されています。また、木質系繊維、バイオプラスチック、バイオ系フィブリル、先進的なリグニンの応用などの新製品も開発中で、商業化に近づいています。

フィンランドのバイオ経済の約50%は、何世紀の間フィンランド経済の中心となってきた林業で占められています。国土の86%が森林に覆われているフィンランドは、ヨーロッパで最も森林の多い国です。年間1億立方メートルの森林が成長しており、その森林の90%はPEFC認証を取得しています。

フィンランドの「グリーンゴールド（森林資源）」は、数々のバイオ経済の価値連鎖を生み出してきました。UPM、StoraEnso、Metsä Group、SCA、Sappiをはじめ、世界的な林業企業がフィンランドにその主な生産施設を構えています。フィンランドには50か所のパルプ・製紙工場と240か所の木材製品生産拠点があります。Andritz、住友重機械工業、Outotec、Valmetなど、先駆的技術企業や、世界有数の森林機械メーカー、John DeereならびにPonsseもフィンランドに拠点を置いており、Kraton Group、CP Kelco、Forchemをはじめとする大手化学メーカーは、フィンランドでバイオベースの原料やプロセスに力を入れています。フィンランドでは、輸送用バイオ燃料の使用が急速に増加しており、その発展は森林・エネルギー関連の大手企業が主導しています。

フィンランド企業のNesteは、廃棄物と残渣だけを原料とした再生可能ディーゼルの生産で世界をリードしています。次世代のバイオベース包装材はフィンランド発祥であり、UPM、Kotkamills、Stora Enso、Huhtamäkiが持続可能なソリューションを提供しています。

“

北カレリア（フィンランド）で生産される製材品は非常に品質が高く、今後数年間で創業したいと考えている高付加価値市場でも優れた出発点となる製品であると考えています。

**ハンス・ビンダー**  
(HANS BINDER)

ビンダーホルツ（オーストリア）、オーナー

また、研究開発型のソリューションとしては、Paptic、Woodly、Sulapacなど、受賞歴を誇るスタートアップ企業があります。

## ご存じですか？

フィンランドでは、1886年に初めて森林保護法が制定されました。現在、森林の90%がPECFの認証を受けています。

フィンランドは現在、バイオ燃料とパルプがブームとなっており、複数の精製所や工場の新設が予定されています。

石油から作られるものはすべて木で作ることができる。フィンランドではすでに挑戦が始まっています。



フィンランドはバイオ経済セクターの世界的リーダーで、魅力的な機会・可能性を提供しています。私たちはバイオリファイナリー・プロジェクトをKemijärvi (ケミヤルウィ) で実現することに決めました。

ユーファン・ワン  
(YUHAN WANG)

CAMC ENGINEERING (中国)、  
ヴァイスプレジデント

## 次世代の バイオリファイナリー

フィンランドのバイオ経済成長への道は、国内大手企業による大規模な投資で切り開かれてきました。2014年、UPMが世界初の木質系再生可能ディーゼルバイオリファイナリーをLappeenranta (ラッペーンラント) に設立しました。主な原料は原油トールオイルです。また、Metsä Groupの次世代型、12億ユーロのバイオ製品工場がアーネコスキ (Äänekoski) にあり、2017年から稼働しています。2018年には、Metsä Groupと日本企業の伊藤忠が、木材から繊維を生産する工業規模のパイロットプラントに2000万ユーロを投資しました。

中国企業のChina CAMC Engineeringは、パートナー企業と協力し、フィンランドのバイオ経済プロジェクトに約10億ユーロを出資する意向を表明しています。

フィンランドの好調なバイオ経済は、専門知識とリソースはもちろん、優れたビジネスと提携の機会を国際企業に提供し、特にバイオ化学品や高度なバイオマテリアルなど高付加価値のサービスや製品の精製、製法、創出において貢献します。

将来、現在石油を原料としているものはすべて木材から作ることができるようになるでしょう。フレキシブルスクリーン、音響システム、自動車部品、生分解性包装材、接着剤、塗料、化粧品、医薬品、繊維など、木材は将来多くの新しい市場で活躍する可能性を秘めています。

## バイオベースによる成長のための 独自のプラットフォーム

- 堅調な産業クラスター
- 世界トップレベルの競争力
- 成長と提携の可能性
- 豊かな原材料
- 政府の支援



PHOTO: UPM



PHOTO: UPM



PHOTO: STORA ENSO



PHOTO: UPM



PHOTO: STORA ENSO

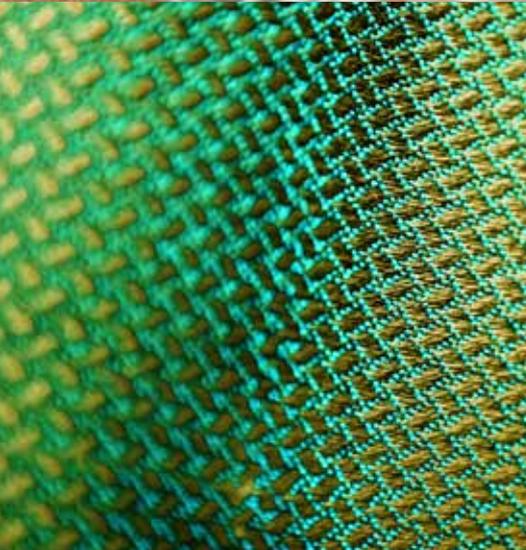


PHOTO: UPM

# 旅とツーリズム 心躍る 新しい機会

ホンモノ。静謐。自然。  
フィンランドの  
旅のキーワード。

---

フィンランドには、旅行・観光分野でも、ネイチャー・ツーリズム、ヘルス・ツーリズム、フード・ツーリズム、カルチャー・ツーリズム、持続可能なツーリズムなど、新しい商品やサービスを開発するすばらしい機会があります。

世界でも最も安定し機能的な社会として常にランキングに入るフィンランドは、清潔で美しい自然、四季の変化、地域や文化の多様性、そして持続可能性の基準の高さが特徴です。

静寂、本物、自然との触れ合いは、今日の観光体験でますます重要視されるようになっていますが、この点でも理想的な旅先です。

フィンランドの観光産業では、過去4年間で、毎年訪問者数の記録を更新しています。まだフィンランドにない新しいコンセプトやサービスを提供する旅のブランドづくりはいかがでしょうか。



フィンランドの4大観光地への旅では、忘れられない体験と思い出の場所ができるでしょう。

#### ヘルシンキ首都圏

(HELSINKI METROPOLITAN AREA) は、フィンランド湾に面した活気のある地域です。文化体験、ショッピング、絵のように美しい公園、歴史的な名所などが楽しめます。

**ラップランド (LAPLAND)** : フィンランドの最北端に位置し、冬は雪とサンタクロースとトナカイのワンダーランドとして知られ、世界的に有名なスキーリゾートがあります。北極圏の大自然の中で静謐な空気を感じることができます。また、冬は幻想的なオーロラを、夏は70日間沈まない真夜中の太陽を楽しむことができる場所でもあります。

#### フィンニッシュ・レークランド

(FINNISH LAKELAND) は、手つかずの自然の驚異に満ちた地域です。ヨーロッパ最大の湖水地方として知られるこのエリアには、たくさんの湖と森に覆われた島々や魅力的なコテージが点在しています。

#### フィンランド群島

(FINNISH ARCHIPELAGO) は世界最大の群島です。フィンランド最古の歴史的建造物があり、地理的・文化的にもユニークな地域です。

フィンランドへの旅行は、東西どちらからもアクセスが良く、空港としても評価の高いフィンランドのハブ空港、ヘルシンキ空港がゲートウェイになります。また航空、鉄道、道路、水上交通の国内ネットワークも充実しています。具体的な投資の機会についてご興味がありますか? 成長を続ける旅行・観光セクターに関する最新ニュースや専門家の分析については、インベスト・イン・フィンランド (Invest in Finland) までご連絡ください。



# その他の 産業

## スマート船舶と 自律型輸送

フィンランドには、国際市場向け造船業という長い伝統のもと、強力で多様性に富んだ海運産業があります。世界最大の豪華客船のほとんどはフィンランドで建造または設計されています。

同様に、世界の砕氷船の60%がフィンランドで建造され、80%がフィンランドで設計されています。世界初のLNGを燃料とした砕氷船はフィンランドで建造されました。

1,000社以上のサプライヤーを擁するフィンランドは、世界最大の造船協力業者ネットワークも有しています。専門分野には、船舶設計、船舶建造、船舶修理、船舶動力・推進、船上貨物ソリューション、荷役機械・システム、エンジニアリング、設計、ライフサイクルメンテナンスソリューション、船舶運航技術、高エネルギー効率のソリューションなどがあります。

フィンランドは、次世代海運ソリューションの開発における世界的なパイオニアです。例えば、光センサー、無線通信、ソフトウェア開発、産業用インターネット、人工知能などの専門知識に恵まれているため、自律型海上輸送運技術のテストや開発に最適な環境です。「ワン・シー自律型海運エコシステム」(One Sea Autonomous Maritime Ecosystem)は、トップレベルの研究、最先端の情報技術とビジネスの戦略的融合を目指すコンソーシアムとして、フィンランドと国際的な海洋専門家を集めて設立されました。ワン・シーは、事故を最小限に抑えるための産業基準、海上交通による環境フットプリントの減少、新たな商業ベンチャーの可能性を探るなど、2025年までに自律運航船に適した環境を整えることを目指しています。

2018年12月には、ロールス・ロイス (Rolls-Royce) がパライネン (Parainen) とナウヴォ (Nauvo) 間で、世界初の完全自律型フェリーのデモンストレーションを行いました。

フィンランドの西海岸に位置するヤコンメリ (Jaakonmeri) のテストエリアは、自律型海上交通、船舶、または関連技術のテストを希望するすべての企業、研究機関などに開放されています。

## 小売市場における 国際ブランドの 可能性

フィンランドの小売セクターは過去15年間で大幅に成長し、フィンランドの家庭はその購買力でEUのトップ10に入っています。フィンランドの消費者はハイテクに精通し、国際志向が強く、収入の大部分を小売やレジャーに費やしています。また、高級品やディスカウントセールへの需要も高まっています。

フィンランドショッピングセンター評議会 (Finnish Council of Shopping Centres) によると、フィンランドにおける国際的小売業者の存在感は年々着実に高まっていますが、ヨーロッパの他の地域に比べるとまだ低いため、新規参入の可能性は大いにあります。現在、新しいショッピングセンターのプロジェクトが複数進行しており、小売ブランドに新しい機会が生まれています。フィ

ンランドでは、小売店の営業時間は非常に自由に設定されています。

ヘルシンキ都市圏はフィンランドで最も急成長しているエリアで、現在の人口は120万人です。フィンランドの強力な観光産業もまた、多くの地域で小売業の売上を押し上げています。ロシア、北欧、バルト三国の間に位置するフィンランドは、北欧全体から5億人の消費者のアクセスがあり、地域拡大の拠点としても最適です。

## 好調な ビジネスサービス分野

IT・デジタルサービス、建築・エンジニアリング関連、雇用関連、管理・コンサルタントサービス、広告、会計・監査、法律関連、技術テスト・分析、市場調査などのビジネスサービス分野が盛んです。



## 強固な化学工業

化学工業はフィンランドの工業生産高と輸出高の20%を占め、国内第2位の産業となっています。

フィンランドの化学企業は、革新的な製品やサービスを導入して成長しています。また、他の産業、特に機械・金属製品、電子機器、パルプ・製紙などの分野でも、化学薬品は重要な役割を果たしています。

“

フィンランドの高性能製品の生産施設への投資は、弊社の成長戦略を実行するための新たな一歩となります。フィンランド南部という拠点を生かして、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、バルト諸国での高性能断熱材の需要拡大に対応できるようになります。

**オリバー・シャペル**  
(OLIVIER CHAPPELLE)

レクティセル（ベルギー）、  
CEO

## スマート物流の中心地

フィンランドは、北欧、ロシア、アジアを結ぶコスト効率の高い物流ハブです。2017年にフィンランドのコウヴォラ (Kouvola) と中国の西安を結ぶ鉄道貨物ルートが開通しましたが、中央ヨーロッパのルートよりも速く、より長い列車での運行が可能になりました。このため、海上輸送だと湿気に悩まされる木材や季節商品など、特殊な条件が必要な貨物に最適です。また、飛行機の場合はヨーロッパとアジアを最速で結んでいます。海上貨物は30か所以上のフィンランド国内の港で取り扱われています。EUからロシアへの通過貿易は、その大部分がフィンランドを通過しています。





## 魅力あふれる鉱山

フィンランドはヨーロッパでも有数の鉱山国です。現在、金、白金族金属、ベースメタル、ダイヤモンド、工業用鉱物を中心に採掘が行われています。フィンランドはEU諸国のうちコバルトの唯一の生産国であり、金は最大の生産量を誇っています。多くの鉱物の大部分が調査中であるため、新たな発見の可能性が大いにあります。また、フィンランドには優れた地質データベースやインフラ、容易に利用できる調査サービスがあります。フレイザー・インスティテュート (Fraser Institute) の鉱業企業年次調査 (Fraser Institute's Annual Survey of Mining Companies) では、フィンランドは世界で2番目に魅力的な鉱山投資対象としてランクインしています。

## 世界が認めたゲーム産業

この10年で、フィンランドは世界のクリエイティブなゲーム開発者の中心地として発展し、フィンランドのゲームスタジオは海外の投資家や人材を惹きつけています。業界で大ヒット作したゲームには、Supercellの『クラッシュ・オブ・クラン (Clash of Clans)』やロビオRovioの『アングリー・バード (Angry Birds)』など、フィンランドの企業が手がけたものもあります。好調なフィンランドのゲーム産業の年間売上高は現在20億ユーロ以上となっています。

ゲーム産業は、フィンランド政府の強力な支援を受けており、専門学校、応用科学大学、大学でもゲーム関連の教育が行われています。

“

フィンランドのゲーム開発者は、新たに開拓された市場、ビジネス実践、プラットフォームをうまく活用しています。フィンランドの多くのスタジオでは、ブロックチェーン、クロスプラットフォームゲーム、クラウドゲーム、サブスクリプションモデル、HTML5 (チャットゲームなど)、新しいコンソール、XR技術など、新しいチャンスを取り入れようとしています。

### NEOGAMES FINLAND

フィンランドゲーム産業ハブ  
ネオゲームス・フィンランド



# 安定した 魅力的な ビジネス環境

安定性、継続性、  
予測可能性を備えた  
ハイレベルの ビジネス環境

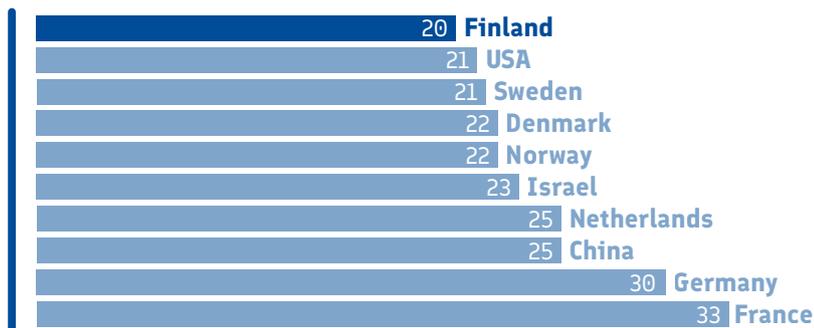
---

フィンランドの平和で機能的な社会の柱として、透明性の高い政府と実働できる国家機関、独立した司法制度、法規範の尊重があります。フィンランドでは、市民の自由と個人の自由が確立されており、男女平等に関する先進的な法律も制定されています。

フィンランドは北欧で唯一の欧州連合（EU）の加盟国かつユーロ圏でもあります。フィンランドの銀行は世界で最も信頼できる銀行であり、フィンランドは政治的腐敗から最も遠い国の一つとして常にランクインしています。こういった要素が重なり、フィンランドで事業を行う国際企業や投資家にとってのビジネスリスクも大幅に軽減されています。BMIリサーチ（BMI Research）によると、2016年から2025年までの間、フィンランドは常に世界で最も政治的に安定した国の一つとなると予測されています。

高度に工業化し、知識をベースにした革新的な経済となったフィンランドのサクセスストーリーは、自由貿易とグローバル化された経済に対する投資への開放性のおかげだと言えるでしょう。その結果、フィンランドのビジネス環境は非常に国際的で、海外からも魅力的な出資先となっています。国際企業は、フィンランドの信頼できるインフラ、高学歴の労働力、ビジネスのしやすさから恩恵を受けることができます。フィンランドの法人税率（20%）はEUの中でも最低水準です。

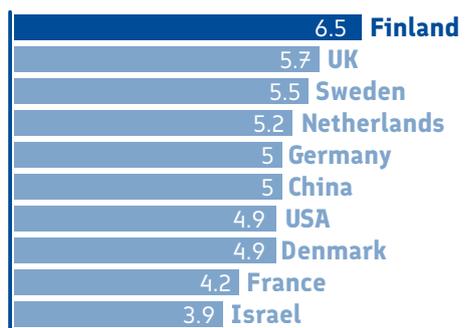
## 2019年法人税率



出典：2019年デロイト

## 安全な環境が資金を守る

テロによるビジネスへの影響



（1 = テロによりビジネスに大きな影響を被る、7 = テロにより大きな影響を被らない）

出典：2017/2018年世界経済フォーラム（スイス）、世界競争力レポート



## ご存知ですか？

**フィンランドは世界で最も安定している国です。**

(2019年平和のための基金)

**フィンランドは世界で3番目に腐敗が少ない国です。**

(2018年トランスパレンシー・インターナショナル)

**フィンランドは世界で最も組織犯罪が少ない国です。**

(2019年世界経済フォーラム、世界競争力レポート)

**フィンランドは世界で最も安全な国です。**

(2019年世界経済フォーラム世界競争力レポート、スイス)

**フィンランドはマクロ経済の安定性が最も高い。**

(2019年世界経済フォーラム世界競争力レポート、スイス)

# ビジネスを 支える 確かなインフラ

フィンランドではすべてが機能する。  
エネルギー供給から交通、ICTネットワーク  
に至るまで、フィンランドはビジネスに  
必要な優れたインフラを提供しています。

---

フィンランドの発電は、異なる生産技術と原料を使用したうえで400か所以上の発電所に分散化されています。この多様なアプローチによって非常に安定したエネルギー供給が確保され、電気と天然ガスの価格が競争力のある水準に保たれています。

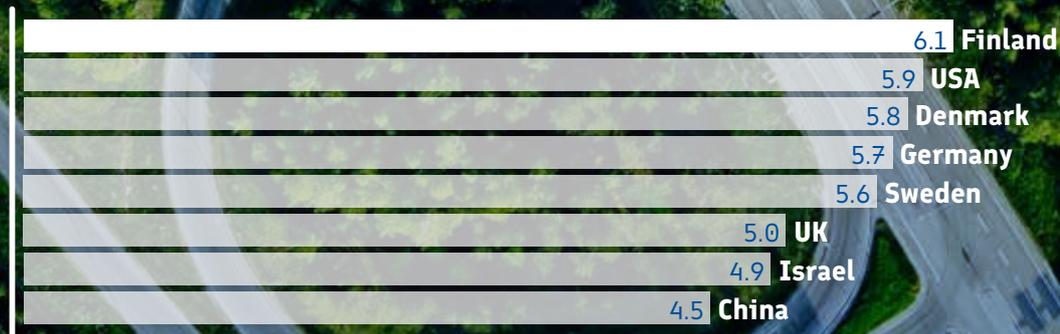
フィンランドの航空、海上、鉄道、道路のネットワークは、包括的でよく整備されています。

ヘルシンキ空港は、ヨーロッパとアジアを結ぶ戦略的なフライトハブです。また、ヘルシンキとドイツを結ぶ超高速かつサイバーセキュリティを備えた海底ケーブル

C-Lion 1は、フィンランドと中欧・東欧を結ぶ新たなデジタルハイウェイとなっています。西ヨーロッパとロシア間のインターネット・トラフィックについては、すでに80%がフィンランドを経由しています。フィンランドは、ヨーロッパとアジアの間にデジタルの架け橋を築く「アークティック・コネクト (Arctic Connect)」構想に深く関わっています。C-Lion 1は、北東航路を経由して計画されているケーブル接続のバックボーンとしての役割も担っています。

## 機能的なインフラで事業コストを全体的に削減

インフラ全体の品質



その国の一般的なインフラ（例：輸送、電話、エネルギー）の質の評価（1=非常に未発達、7=国際基準でも広範的で効率的）。

出典：2017～2018年世界経済フォーラム、世界競争力レポート、スイス

# 高学歴で 熟練した 労働力

フィンランドの労働力となる人々は、  
高学歴で熟練した技術と  
経験を持ち、高い生産性と  
コミットメントで知られています。

国際的に比較して、フィンランドの人件費は従業員の教育と経験のレベルを考慮すると競争力があります。その結果、アウトプットの質と量にも影響を与えています。フィンランドの人的資本は、教育、福利厚生、雇用の面で世界最高の指標を持つ国の一つです。

グローバルビジネスを熟知し、時差のある多文化環境で英語を使って仕事することに慣れていきます。30歳以下のフィンランド人の90%以上が英語を話します。また、フィンランドではフィンランド語に加え、スウェーデン語が第二公用語であり、ロシア語も話すフィンランド人も多くいます。

国際的なランキングでは、フィンランドは科学者やエンジニアの数が最も多く、一人当たりの研究者の数も多いことで知られています。フィンランドのエンジニアは、ソフトウェアとハードウェアの設計と統合の

あらゆる分野で、グローバルな複数拠点での製品開発プロジェクトで優れた結果を出しています。

## 世界最高の 教育システム

フィンランドは、世界で最も優れた教育システムによって高度に工業化し、知識を基盤とした社会へと発展してきました。フィンランドの労働人口の約3分の1が学位以上の資格を持っています。

フィンランドの教育は、初等教育から大学院の研究まで、すべての国民に無料で提供されています。高等教育は14大学と24応用科学大学で行われています。また、フィンランドの教員は、修士号と教育に特化した資格を持っていなければなりません。フィンランドは、若者の数学、読解、科学の知識と技能を測るPISA調査で、常に世界で

最も優れた国の一つとしてランキングに入っています。

フィンランドのICT企業やゲーム業界は学校と提携し、学習を楽しくする最先端のデジタル学習ソリューションの開発を支援しています。





“

## フィンランド人 とのビジネス

面白いのは文化の違いです。私がフィンランドについて好きなことは、コミュニケーション効率の良さです。彼らは率直で、とても正直で、とても効率的です。協力関係もうまくいっていますし、チームの中にはいつもリスペクトを感じます。

マーク・オリラ  
(MARK OLLILA)

カスト (アメリカ)、  
CEO&共同設立者

## ご存じですか？

**フィンランドは世界で2番目に  
熟練した労働力を持っています。**

(2019年世界経済フォーラム、世界競争力レポート)

**フィンランドの大学は世界でも  
トップクラスの成績を  
収めています。**

(2019年Universitas 21)

**フィンランドの教育は、  
未来のニーズに答えることができ  
る世界最高の教育です。**

(2018年エコノミスト・インテリジェンス・ユニット&イーダン賞、  
世界の未来のための教育指標)

**フィンランドでの教育は、  
博士号まで100%無料です。**

**フィンランドは世界で最も  
科学者や技術者が  
入手しやすい国です。**

(2017~2018年世界経済フォーラム、世界競争力指数)

**30歳以下のフィンランド人の  
90%以上が英語を話します。**

(フィンランド統計局)



# 躍進する イノベーション

一人当たりの特許発明数で  
世界のトップ10に入る国

フィンランドが生み出したイノベーションには、世界初のウェアラブル・フィットネストラッカー、初のメッセージングアプリ、健康な歯のためのキシリトール甘味料、Linuxオペレーティングシステム、SSHインターネットセキュリティプロトコル、モバイルゲーム「クラッシュ・オブ・クラン (Clash of Clan)」や「アングリィ・バード (Angry Birds)」などがあります。

企業と大学の間で知識を移転させたことが、フィンランドのイノベーションと経済的成功の鍵となる要素です。フィンランドの産業界、研究機関、大学、政府の間には強力な協力関係があり、前例にとらわれない技術や革新的なデザインを提供してきた実績があります。プロジェクトの多くは国際企業にも開かれています。

世界有数のスタートアップイベントであるスラッシュ (Slush) は、フィンランドの革新的なスタートアップ企業や新技術に出会

るチャンスです。フィンランドには、アクセラレーター、エンジェル・インベスター、ベンチャーキャピタリスト、政府による強力なイノベーション支援など、活気に満ちたスタートアップエコシステムがあります。

## 信頼される研究開発の拠点

フィンランドは、新製品、生産方法、プロセス、技術に向けて、研究開発やテストに最適な環境を提供しています。新しいオペレーティング・モデルやシステムは、実際の動作環境、例えば街中や交通の中、あるいは顧客企業の業務の一部としてテストすることができます。

フィンランドには、富士通、IBM、Microsoft、Huawei、デンソーなど、世界をリードする多くの企業の研究開発センターがあります。



弊社が研究開発投資先にフィンランドを選んだ理由は、才能あるソフトウェア開発者やハードウェアエンジニアが揃っていること。また、安全性、安定性、教育、研究のレベルが高いためです。

**ブライアン・クイン  
(BRIAN QUINN)**

インテル・ラボ・ヨーロッパ(アイルランド)、  
ビジネス戦略ディレクター

## ご存じですか？

### フィンランドは世界で3番目に革新的な国です。

(2019年ブルームバーグ・イノベーション・インデックス&2019年  
コンシューマー・テクノロジー・アソシエーション (CTA)™)

### フィンランド、国際的なPCT特許出願件数で1位に

(2019年グローバル・イノベーション・インデックス)

### フィンランドの研究開発費はGDPの2.7%を占めています。 この割合は欧州で最も高い部類に入ります。

(2019年ユーロスタット)

### フィンランドは大学と産業界の研究協力で世界5位にランキングされています。

(2019年グローバル・イノベーション・インデックス)

## フィンランドの研究プログラムに参加する

フィンランドには共創とイノベーションの機会を可能にする多くの産業エコシステムや研究プログラムがあり、国際企業にも開放されています。

近年設立されたフィンランド・フラッグシップ・プログラム (Finland Flagship Programme) は、フィンランドにおける研究、開発、イノベーションの新しい独自の方法を提供し、研究、ビジネス、社会の間の積極的なコラボレーションを促進しています。6つの大規模なエコシステムに対して、長期的な政府の資金援助が行われています。

- FinnCERES – 材料バイオ経済のためのコンピテンス・センター
- 6Genesis – 6G対応ワイヤレススマート社会&エコシステム
- FCAI – フィンランド人工知能センター
- INVEST – 不平等と介入と新しい福祉国家
- PREIN – フォトニクス研究とイノベーション
- iCAN – デジタル精密がん医療プラットフォーム



### ベンチャーキャピタルの利用可能性、 10か所のロケーション比較

この表は10か所の拠点におけるベンチャーキャピタルの利用可能性の基礎データに関連する情報をすべて示しています。革新的だがリスクの高いプロジェクトのためのベンチャーキャピタルへのアクセス（1=アクセスが非常に困難、7=アクセスが非常に容易）。評価法：1から7で評価

国	ランク	得点1-7	国	ランク	得点1-7
United States	1st	5.2	Singapore	6th	4.8
Israel	2nd	5.2	Germany	7th	4.8
<b>Finland</b>	<b>3rd</b>	<b>5.1</b>	Hong Kong	8th	4.7
United Arab Emirates	4th	4.8	Malaysia	9th	4.6
Qatar	5th	4.8	United Kingdom	10th	4.5

出典：2019年世界経済フォーラム世界競争力レポート、スイス

# 外資系企業への インセンティブ

外資系企業は、フィンランド  
企業と同等に、政府および  
EUから幅広いインセンティブ  
を受けることができます。

---



## 研究開発への インセンティブ

### Business Finlandによる R&D&Iインセンティブ

Business Finlandのイノベーション・ファンドは、世界的な成功の可能性を秘め挑戦的で革新的なプロジェクトに対して、低利の融資と助成金を提供しています。フィンランドで企業、研究機関、公共部門のサービス提供者が行う研究開発活動に資金を提供しています。技術的なブレークスルーに加えて、サービス関連、デザイン、ビジネス、社会的イノベーションにも力を入れています。スタートアップ企業を含め、あらゆる規模の企業がこれらのインセンティブを受けることができます。

## 投資、土地、 インフラの インセンティブ

### ELYセンター (ELY Centers) による事業支援

フィンランドで事業を展開する企業への事業支援は、経済開発・交通・環境センター (ELYセンター) によってコーディネートされており、15か所の地域事務所で投資・開発プロジェクトのためのアドバイス、研修、専門家サービス、資金提供を行っています。

フィンランドにある外資系企業は、特定地域 (開発地域1と2) においてさまざまな種類の支援を受けることができます。

### TESIによる成長資本

TESI (Finnish Industry Investment) は、100%国営の株式投資企業です。フィンランドのベンチャーキャピタル産業の成長と発展に出資することを使命としています。TESIは利益追求型の有限責任会社で、独立した取締役会が投資判断を行います。1つの投資プロジェクトで、TESIの投資総額に対するシェアは最大50%です。民間の投資家のシェアは50%以上でなけ

ればなりません。出資基準は、民間のベンチャーキャピタルや株式投資家の基準と同じです。

### Finnveraの融資と保証

フィンベラは国有の専門金融会社で、フィンランドの公式輸出信用機関 (ECA) (Export Credit Agency) です。融資、国内保証、輸出信用保証、その他輸出融資に関連するサービスを提供し、フィンランドにある企業の潜在的な経営能力と競争力を強化しています。融資の際のリスクは、フィンベラと他の金融機関で共有されます。

## 研修および雇用 インセンティブ

### ELYセンターのTEサービスによる 研修と雇用サービス

ELYセンターは、採用、業務の効率と管理能力の向上、スタッフのスキルアップ、新入社員研修などのサービスを提供します。

### 雇用サービス

地域のTEオフィスが採用のお手伝いをします。TEオフィスは地域の労働力と雇用市場を熟知しており、最適なスキルを持った従業員を見つけることができます。

### 研修

TEサービスは、雇用者と協力して職業研修を計画し実施します。共同研修プロジェクトでは、TEセンターと雇用主が資金を分担し、雇用主が学生の選考に参加します。共同研修により、企業は次のことが可能になります。

- 企業が必要とするスキルが他の教育では完全に習得できない場合に、熟練した労働者を探す
- 従業員のためのオーダーメイドの基本的または高度な職業研修を提供する
- 解雇された労働者が新しい職業に就くための協力と支援



欧州では政府による同様の資金調達制度を導入している国もありますが、各国に大きな違いがあり、フィンランドの制度に大きなメリットがある場合があります。出身国に関係なく企業が公平・公正に扱われるということは、初めから非常に魅力的でしたし、重要なことでした。

### グーピン・ラオ博士 (DR GUOPING LUO)

ファーウェイ (フィンランド)、  
ディレクター



# フィンランドへの 海外直接投資

世界で最も競争力があり、  
開放的な経済国の一つであるフィンランドは、  
国際企業に多くの機会を提供しています

---



フィンランドへの海外直接投資（FDI）では、知識主導型ビジネスに関連するものが多く実施されています。

ビジネス・エコシステムへの参加やフィンランド企業との協力は、国際的な企業にとって貴重な研究・開発・イノベーションのパートナーシップや新たな成長の機会をもたらしてくれるでしょう。

例えば、フィンランドには、最先端の専門知識を持ちながらも資本が乏しいためにグローバル市場へのアクセスできない小規模なテクノロジー企業が多く存在する、ハイテク・クラスターがあります。このため、投資によってウインウインのビジネスチャンスが生まれます。

EYが実施した「2019年北欧の魅力度調査（Nordics Attractiveness Survey 2019）」によると、フィンランドは2018年、過去最高の海外直接投資プロジェクトを確保し、他の北欧諸国を合わせた数よりも多くのプロジェクトを誘致しました。この時、フィンランドは北欧諸国の海外直接投資先として7年連続で第1位でした。

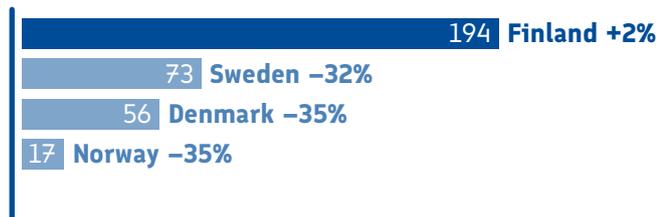
2018年のフィンランドにおける海外直接投資プロジェクトの大半は、デジタル、医療・福祉、ビジネスサービスの分野で創出され、次いで機械設備、金属、金融、公益事業供給、電子機器・IT、研究・科学機器、運輸・物流となっています。

フィンランドに投資する多くの企業は、北欧、バルト三国、ロシアでのビジネスを管理したり、ヨーロッパでのビジネスを東アジアにつなげたりするための拠点としてもフィンランドを利用しています。

フィンランドでは迅速かつ簡単にビジネスを立ち上げることができます。フィンランドでの会社設立に関する詳細については、[ビジネスガイド](#)をご覧ください。



## 2018年の北欧における FDIプロジェクト数



出典：EY 2019年北欧の魅力度調査

## 2018年の北欧都市における FDIプロジェクト数



出典：EY 2019年北欧の魅力度調査



2019年最も人気のあった  
投資分野

ICTとデジタル化関連

ビジネスサービス

健康と福祉

バイオ経済とクリーンテック

小売

出典：2020年版インベスト・イン・フィンランド：  
フィンランドへの投資



# インベスト・イン・ フィンランド (対フィンランド投資部門)

## 成功するビジネスのために

フィンランドの公式投資促進機関であるインベスト・イン・フィンランド (Invest in Finland) は、国際的な企業や投資家の皆様に役立つ様々なサービスを提供しています。私たちの使命は、フィンランドでの皆様のビジネスの成長と繁栄を支援することです。

私たちは、フィンランドでの事業を計画、設立、拡大する際に、業界の洞察、お客様のニーズに合わせた提案、実践的なサポートを提供しています。機会分析から様々な種類の投資、M&A、研究パートナーシップ、フィンランドの活発なイノベーション・

エコシステムへのアクセスに関する情報まで、私たちには皆様のビジネスを全面的にサポートするための専門知識と人脈があります。フィンランドの産業界の専門家が、フィンランドの産業クラスター、企業、研究機関、大学を知るためのお手伝いをします。私たちは専門的なサービスを秘密厳守かつ無料で提供しています。

インベスト・イン・フィンランドは、全国的に、また地域のパートナーとの緊密な協力関係のもとで活動しています。私たちは、フィンランドのイノベーション資金調達、貿易、投資、旅行を促進する組織、ビジネス・フィンランド (Business Finland) の一部門です。ヘルシンキに本社を置くビジネス・フィンランドは、フィンランド政府の機関として、40か所の海外オフィスと国内20か所の地域オフィスに600人の専門家を雇用しています。ビジネス・フィンランドは、チーム・フィンランド (Team Finland) ネットワークの一員でもあります。

## 無料で提供 される サービス

フィンランドでの  
ビジネスチャンス  
への近道



データ収集と分析



ネットワーク作り



機会分析



ロケーション管理



エントリー・  
オルタナティブの  
アドバイス



事業の立ち上げ

“

インベスト・イン・フィンランドは、当初から研究プロジェクトの立ち上げを支援してくれました。Slushの間だけでなく、イベント以外でもネットワークに入る手伝いをしてもらったおかげで、最初のビジネスコンタクトを取ることができ、それを通じてビジネスにてこ入れすることもできました。

**ダーク・ホフマン**  
(DIRK HOFMANN)

ダイNSTAジオ (ドイツ)、  
CEO

“

“

インベスト・イン・フィンランドは、フィンランドの都市のDNAや近隣地域のダイナミクスの説明から地元のパートナー選定まで、私の右腕となってくれました。

**アンドラス・ホルツァー**  
(ANDRAS HOLCZER)

マイニングホテル (ドイツ)、  
上級ディベロップメント &  
フィジビリティマネージャー

私たちはここにビジネス拠点を置くために多くのサポートを受けただけでなく、アドバイスや人脈もたくさん得ることができました。私たちはインベスト・イン・フィンランドから助成金も受けています。インベスト・イン・フィンランドとのコラボレーションはオープンで実りあるものです。専門家も多くおり、私たちが利用できる素晴らしいネットワークがあります。

**ヤーコ・カイデソーヤ**  
(JAAKKO KAIDESOJA)

イマジン・インテリジェント・  
マテリアルズ (オーストラリア)、  
プレジデント

BUSINESS  
FINLAND

# フィンランドについて

1917年から独立国

人口: 550万人

ビジネス言語:  
フィンランド語、英語、スウェーデン語

近隣諸国:  
スウェーデン、ノルウェー、ロシア、  
エストニア

多党制民主主義

1995年から欧州連合に加盟

ユーロ圏の一員

法人税率: 20%

信用格付け:  
フィッチ (AA+)、ムーディーズ (AA)、  
スタンダード&プアーズ (AA+)

INVESTINFINLAND.COM

ソーシャルメディアでフォローする



Porkkalankatu 1 | FI-00180 Helsinki, Finland | Tel. +358 29 469 51